

青森県

秋田県

# お米の産地に行ってきました。

お米  
産地調査



青森の生産者の秋元さんとJAつがるにしきたの皆様

本会では毎年稲の刈り取り前に産地調査を行っています。今年度も9月6日(水)に本会取扱いの「つがるロマン」並びに「まつしぐら」の産地である青森県、7日(木)に「あきたこまち」の産地である秋田県を訪問しましたのでご紹介いたします。

農協  
JAつがるにしきた

今年度は、7月まで好天が続き順調に生育が進みましたが、8月に入り低温や日照不足の影響で生育が遅れました。また、今年度は悪天候が続いたことで不稔(水稲の穂に実が入らないこと)が平年は4〜5%のところ今年度は13〜14%になりそうとのことでした。収穫量については、9



全農青森の皆様

月の天候が良好であれば「平年並み」となる見込みであるとのことでした。生産者の秋元さんに話を伺ったところ「今年度は、やませ(春から秋にかけて北海道や東北地方などで吹く冷風)の影響で生育に不安が残ったが、徐々に天候も回復してきたのでなんとか大丈夫だろう」と話していました。

カントリー  
エレベーター訪問

カントリーエレベーターとは穀物を貯蔵する施設のことです。この施設では収穫した籾を14.5〜15%まで乾燥させ、その後籾すり(籾から籾がらを取り除く工程)を行い、選別機を通してフレコンに入れ、出荷と



秋田の生産者の照井さんと給食会職員

秋田県主食集荷  
商業協同組合



カントリーエレベーター

いう作業を行います。訪問時は、稲の刈り取り前だった為、乾燥機やサイロの清掃を行っていました。

今年度は、7月下旬と8月下旬の豪雨で甚大な被害を受けた地域がありました。今回訪問した美郷町は大きな被害はありません。

本会取扱いの  
お米について

せんでした。また、「今年の稲は草丈が高いため、今後の天候によっては倒伏する可能性が高いですが、収穫量としては9月の天候が良好であれば「平年並み」である」と話していました。

本会のお米は安全・安心のため様々な検査を実施しています。放射性物質検査は国が設定した基準値を基にそれぞれ青森県、秋田県が実施し、残留農薬検査、DNA検査、重金属検査(カドミウム)については青森県は全農あおり、秋田県は秋田県主食集荷商業協同組合において実施しています。

また、本会におきましても放射性物質検査は新米供給前に実施し、重金属検査(カドミウム検査)、DNA検査、残留農薬検査、細菌検査はご利用いただいている学校からお米をサンプリングして検査を実施しています。

今後とも安全・安心でおいしいお米を供給してまいりますので、ぜひご利用ください。